

弘前大学教育学部 主催

ロバート・ウォーカー教授講演会 (FD workshop by Professor Robert Walker)

Zoom による公開 FD 講演会

音楽教育における科学，社会学，教育学の重要性

The Importance of Science, Sociology, and Pedagogy in the Cultivation of an Education in Music

2022年 3月 29日(火) 18:00-20:00

講師：ロバート・ウォーカー（ニューイングランド大学兼任教授）

通訳：今田匡彦（弘前大学教育学部教授）



ロバート・ウォーカー教授 (Professor Robert Walker)について

1936年英国マンチェスター生まれのロバート・ウォーカー教授は、ロンドン大学キングス・カレッジで音楽学士号と博士号（20世紀前衛音楽の実証的研究）を、王立音楽院（RCM）及びロイヤル・カレッジ・オブ・オルガニスト（RCO）にてディプロマを取得した。彼は、イギリスの2つのセレクトィヴ・グラマー・スクールと大聖堂学校の音楽ディレクターとして、中世音楽以降の西洋芸術音楽の伝統と20世紀前衛音楽の両方を取り入れたカリキュラムを開発、彼の生徒たちは、これらの多様なスタイルの演奏、研究、作曲を学ぶとともに、電子音楽にも取り組んだ。その後、カナダのサイモン・フレーザー大学教授（作曲家R.マリー・シェーフアーの後任）、ブリティッシュ・コロンビア大学教授、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学音楽学部長を歴任、現在はニューイングランド大学（オーストラリア、アーミデール）の兼任教授を務めている。

Sound Projects (Oxford University Press, 1976), *Music Education: Tradition and Innovation* (Charles C. Thomas, 1984), *Musical Beliefs: Psychoacoustic, Mythical, and Educational Perspectives* (Columbia University Press, 1990), *Music Education: Cultural Values, Social Change and Innovation* (Charles C. Thomas, 2007) 等、音楽知覚、音楽哲学、音楽と文化、音楽カリキュラム、教育とエンターテイメントの音楽的境界、北米インディアンとイヌイットの歌声の音響学的研究、文化や環境が音の視覚的イメージに与える影響についての多数の著書がある。1987年から1993年まで国際バカロレアの音楽担当首席試験官および舞台芸術プログラムのコーディネーターを務め、非西洋音楽と西洋音楽の均等な学習、創作を基盤とするあらゆるスタイルやジャンルを含むカリキュラムの再構築を行った。また、アパルトヘイト時代の終焉後、南アフリカ共和国の音楽教育、特に先住民の音楽教育について研究する初期チームの一員となるなど、過去30年にわたり世界中のあらゆる大陸で講演やワークショップを行なっている。

○参加方法：参加は無料ですが、先着100名となります。件名を「ロバート・ウォーカー講演会」とし、〈参加者氏名〉〈所属〉〈メールアドレス〉〈電話番号〉を明記の上、下記までお申し込み下さい。本講演会 Zoom URL をご連絡頂いたメールアドレスに送付致します。

○参加申し込み先：timada@hirosaki-u.ac.jp (弘前大学教育学部 今田匡彦)

○申し込み締め切り：2022年3月22日(火)